

令和4年度 横浜市幼保小連携推進地区事業

推進テーマ

安心した学校生活を送るために

～子どもたちの育ちと学びをつなぐ幼保小の連携～

もえぎ野幼稚園
もえぎ野小学校

推進テーマにせまるために

一人一人が安心して学校生活を送ることができる姿を目指して

幼稚園・保育園での学びの理解を深める

経験をいかす活動→安心・自信

接続期の指導・支援について考える

活動計画（予定）

- ・ 5月 小学校の職員が幼稚園へ授業参観
- ・ 5月 幼稚園の職員が小学校へ授業参観
- ・ 6月 推進テーマ、交流内容について意見交換
- ・ 7月 幼稚園の園児と1年生の交流
- ・ 9月 幼稚園の園児と1年生の交流
- ・ 10月 幼稚園の職員が小学校の授業研究会に参加
- ・ 11月 それぞれの運動会に職員が参加
- ・ 1月 幼稚園の職員が小学校の授業研究会に参加
- ・ 2月 幼稚園の園児と1年生の交流

活動の実際

6年生との交流

◎ 4月～5月

- ・朝の用意の手伝い
- ・レクリエーション



朝の用意や、名札付けを手伝ってもらった。「手伝ってください！」と声をかけると優しく接する6年生の姿が見られ、安心して学校生活をスタートさせることができた。

朝の会でのレクリエーションはグループごとに内容を工夫しており、毎回楽しく活動することができた。

2年生との交流

- ・学校案内（5月）



昨年度は実施できなかった活動を行うことができた。互いに初めてのかかわりだったが、2年生は1年生を思いやり、1年生は2年生の話を聞こうと、一生懸命取り組んでいた。

- ・合同遠足（10月）

学校案内の経験を生かして一緒に楽しみながら活動できた。

活動の実際

幼稚園教諭が小学校へ授業参観

◎ 9月 1年生の、朝の会～1時間目を参観

・感想

子供たち同士で話し合う場面を設けていたため、周囲の友達との関わりがもてていて良かった。

小学校教諭が幼稚園へ授業参観

◎ 9月 もえぎ野幼稚園の年長クラスの運動会練習を参観

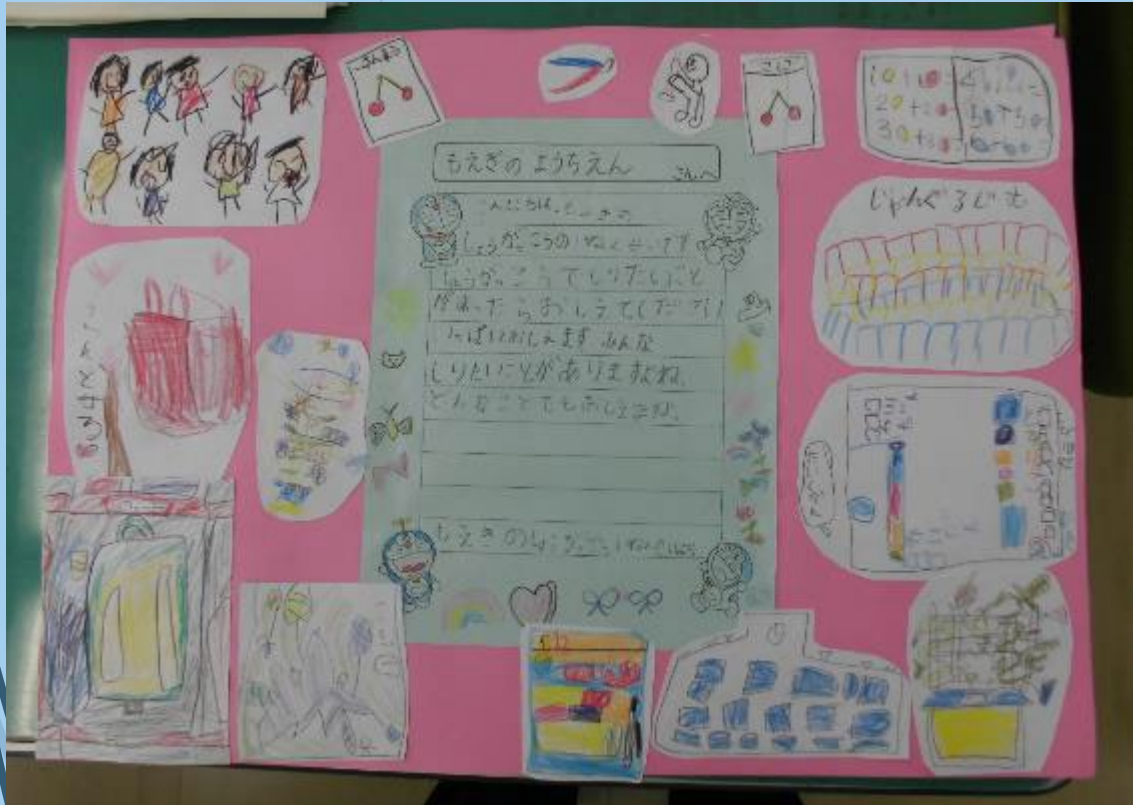
・感想

園庭での練習に、全員が集中して取り組む姿が見られた。
年長クラスの力の高さを感じ、1年生に対する指導の在り方について考えるきっかけになった。



活動の実際

幼稚園・保育園へのお手紙



小学校について知りたいことはないか、幼稚園や保育園の友達に手紙を書きました。

活動の実際

幼稚園生・保育園生との交流



小学校について知りたいこと
はあるかな？

《見たい！》

図書室を見たい！
校庭の遊具を見たい！
給食では何を食べるの？見てみたい！

《知りたい！》

国語では何をやるの？
算数ではどんなことを勉強するの？
音楽では歌を歌うの？
休み時間は、どんな遊びができるの？
ランドセルには何を入れるの？
給食の準備はどうするの？

活動の実際

◎ 12月

1年生ビデオレターの作成

各クラス、グループに分かれて話し合い、どんなことを幼稚園や保育園の友達に伝えたらよいかを考え活動しました。

トランプとか、本物を見せた方が分かりやすいよ！



本の借り方をやって見せてあげよう！



活動の実際

◎ 12月

1年生ビデオレターの作成

毎日使うロッカーは教えてあげた方がいいね！

指さして分かりやすくしよう。



小学校では、給食があるよ。配膳の仕方を教えてあげるね！

活動の実際

◎ 1月

ビデオレター鑑賞

園児の様子

・幼稚園で取り組んでいることと同じ内容のものがあることに喜ぶ姿が見られた。

(例えば、体育や音楽の歌・楽器など。)

・ビデオ内で小学校クイズが出題されたときは、答えを予想しながら、意欲的に観ていた。

教員の感想

○実際に動画で小学校の様子をみることができたので、小学校に対する理解を深めることができたのではないかと思う。

○今後小学校ごっこをする際に、授業や給食など、小学校生活と同じようにできるようにしたい。

成果と課題

・成果

参観しあったことで、発達段階の理解が深まり、また、指導方法の実際を知ることができた。

リクエストをもとに小学校紹介についてのビデオレターを作ることを通して、相手意識をもって意欲的に活動することができた。自分たちの経験を振り返り、どのようなことを入学前に知りたかったかや、小学校について教えたいことを意欲的に考える姿が見られた。

・課題

直接の交流ができず相手の反応が分からないため、お互いに不安な面をめぐいきれなかった。コロナ禍という状況の中で、どのような交流が可能か、今後も考えていきたい。

今後に向けて

今年度もコロナ禍のため、例年通りの交流を行うことができなかった。昨年度は交流を計画していなかったため、今年度は実際の交流を計画していた。しかし、計画していた時期に欠席者が増え、タイミングを合わせることも難しくなった。

来年度は交流を実施し、互いに顔を合わせ、相手意識をもって活動できるようにしたい。また、タブレットを使った交流など、その都度臨機応変に対応できるように、活動方法を考えていきたい。